



ヨーロッパ大航海時代と「聖杯騎士伝説」：ポルトガル「エスタード・ダ・インディア」そして英蘭東インド会社の世界進出における人文地理学的考察

川西, 孝男

(Citation)

人文地理学会2019年大会:60-61

(Issue Date)

2019-11-17

(Resource Type)

conference object

(Version)

Accepted Manuscript

(Rights)

ここに掲載した著作物の利用に関する注意:著作物の著作権は人文地理学会に帰属します。本著作物は著作権者である人文地理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては”著作権法”に従うことをお願いいたします。

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90006522>



ヨーロッパ大航海時代と「聖杯騎士伝説」

ポルトガル「エスタード・ダ・インディア」そして英蘭東インド会社の世界進出における
人文地理学的考察

Legend of Holy Grail's Knight in Europe's the Age of Discovery from the 14th to 17th century - Human Geographic Examination about advance to the World from Estado da Índia, to EIC and VOC-

川西 孝男 (京都大学・人文科学研究所)

Dr. KAWANISHI Takao (Institute for Research in Humanities, Kyoto University)

キーワード：十字軍騎士団、テンプル騎士団、「グローバル十字軍」、聖杯騎士伝説「パルツィヴァール」、アンデクス・メラン大公家、大航海時代、ポルトガル海上帝国、英蘭東インド会社

Keywords: Knights Crusader, Knights Templar, "Global Crusader", Legend of Holy Grail Knight "Parzival", Haus Herzog Andechs Meran, the Age of Discovery, Estado da Índia, British East India Company(EIC), Verenigde Oostindische Compagnie (VOC)

はじめに

十字軍騎士団の主力であったテンプル騎士団は14世紀初頭、フランスの弾圧によって壊滅させられ、これによって聖地エルサレム奪還を目指し、200年以上に及んだ十字軍の時代も終焉を迎えたとされる。しかし、その後騎士団の再結成が計られたことはほとんど知られていない。

本論は、この十字軍騎士団再結成の動きを当時のポルトガル王国を中心に、同国の海上遠征から始まった大航海時代において「聖杯騎士伝説」がその精神的支柱となり、航海の推進と新大陸への進出の原動力であったという新たな視点を提唱し、これを人文地理学的アプローチから例証する。

十字軍後期の13世紀前半に流布された聖杯騎士伝説であるヴォルフラムの「パルツィヴァールParzival」は、十字軍の終焉と共存への新時代の到来を目指して作成された。この伝説は大航海時代と関わりのないものとされていたが、本論ではポルトガル王国によってテンプル騎士団や十字軍騎士団、そして「聖杯騎士伝説」が保護・継承され、この「パルツィヴァール」の聖杯騎士そして聖杯王の言行に基づいて大航海時代が推進されていたことを明らかにする。そこには神聖ローマ帝国のヴォルフラムそして伝説の完成を支援したアンデクス・メラン大公家の精神が、同家ゆかりの聖エリザベートそしてその聖女伝説とともにポルトガルそして大航海時代に継承されていた。

さらに、十字軍遠征や12世紀ルネサンスによってアラブ、アジアからもたらされた当時の先進科学や各国の現地情報を元に当初、エルサレムに代わるインド(インディア)を中心とした全世界での聖杯そして聖杯騎士の探索、さらには共存的交易・外交を目指した大航海時代が、やがて軍事力を背景に交易や海外拠点の拡大などを目的とする「グローバル(型)十字軍」に変容し、遂行されたという視点を提唱し、日本にまで至るポルトガル海上帝国(エスタード・ダ・インディア)が樹立され、後のイギリス東インド会社(EIC)やオランダ東インド会社(VOC)に受け継がれたことを例証する。そこには十字軍時代の地中海、バルト海といった「内なる海」から、真の「大海原」に理想郷や新天地を求めて探検・航海を繰り返す大航海時代における、未知の異文化圏に宗教や商取引を通じて進出し得る、新たな時代のキリスト教騎士そして十字軍像への志向があったことに及びたい。



図1. Dinis I de Portugal1261-1325 & St. Elizabeth1271-1336



図2. Ordem de Cristo, in Arquivo Nacional Torre do Tombo & Rose Miracle of Elisabeth von Thüringen and Portugal



図3. Andechs-Meranier, Schlackenwerther Codex von 1353



図4. Prince Henry the Navigator 1394–1460 & Ordem Militar de Cristo’s ship for Navigation (Maritime Museum, Lisbon)



図5. Berner Parzival in 1467, Bern, Burgerbibliothek



図6. The Cantino planisphere, 1502 (Biblioteca Estense, Italy)



図7. Prester John, “Preste” as the Emperor of Ethiopia, 1558. (British Library) & Holy Grail in Valencia, Spain



図8. the Portuguese Eastern empire, Estado da Índia(c.1550)



図9. British East India Company EIC ship & Dutch’s VOC



図10. Insulae Indiae Orientalis (ca, 1650)



図11. <https://www.worldatlas.com/articles/what-was-the-age-of-explo-ration-or-the-age-of-discovery.html>

<主要な研究協力交流機関>

本論は東京大学史料編纂所における特定共同研究「モンスーン文書・イエズス会日本書翰・VOC文書・EIC文書の分野横断的研究」(モンスーン・プロジェクト、松方冬子班)の研究成果を取り入れている。関西学院大学、京都大学東南アジア研究所図書館 Arquivo Nacional Torre do Tombo, Coimbra University Maritime Museum Lisbon, British Library Nationaal Archief, Den Haag in Nederland

<主要参考文献>

Richard Henry, *The discoveries of Prince Henry, the Navigator, and their results*, London, 1877.
Oliveira Martins, *The golden age of Prince Henry the Navigator*, London, 1914.
José Miguel Pero-Sanz, *Santa Isabel: Reina de Portugal*, Palabra, 2011.
William M. Brown, Simeon B. Chase, Paul Tice, *Highlights of Templar History: Includes the Knights Templar Constitution*, San diego, 2003.
Bailey Wallys Diffie, *Foundations of the Portuguese Empire 1415-1580*, University of Minnesota Press, 1977.
Rudolf Lietz, *Insulae indiae orientalis, commemorating the exhibition of selected original antique maps, prints and books included in the 11 lectures of the 36th IMCos SYMPOSIUM*, Manila, 14-17 October 2018.
Dr. David E. Parry, *The Cartography of the Eastern Indian Islands - Insulae Indiae Orientalis*, London, 2005.
Wolfram von Eschenbach, *Parzival I und II: Text und Kommentar*, Ulm, 2006
川西、『聖杯騎士伝説の研究』、関西学院大学出版会、2016